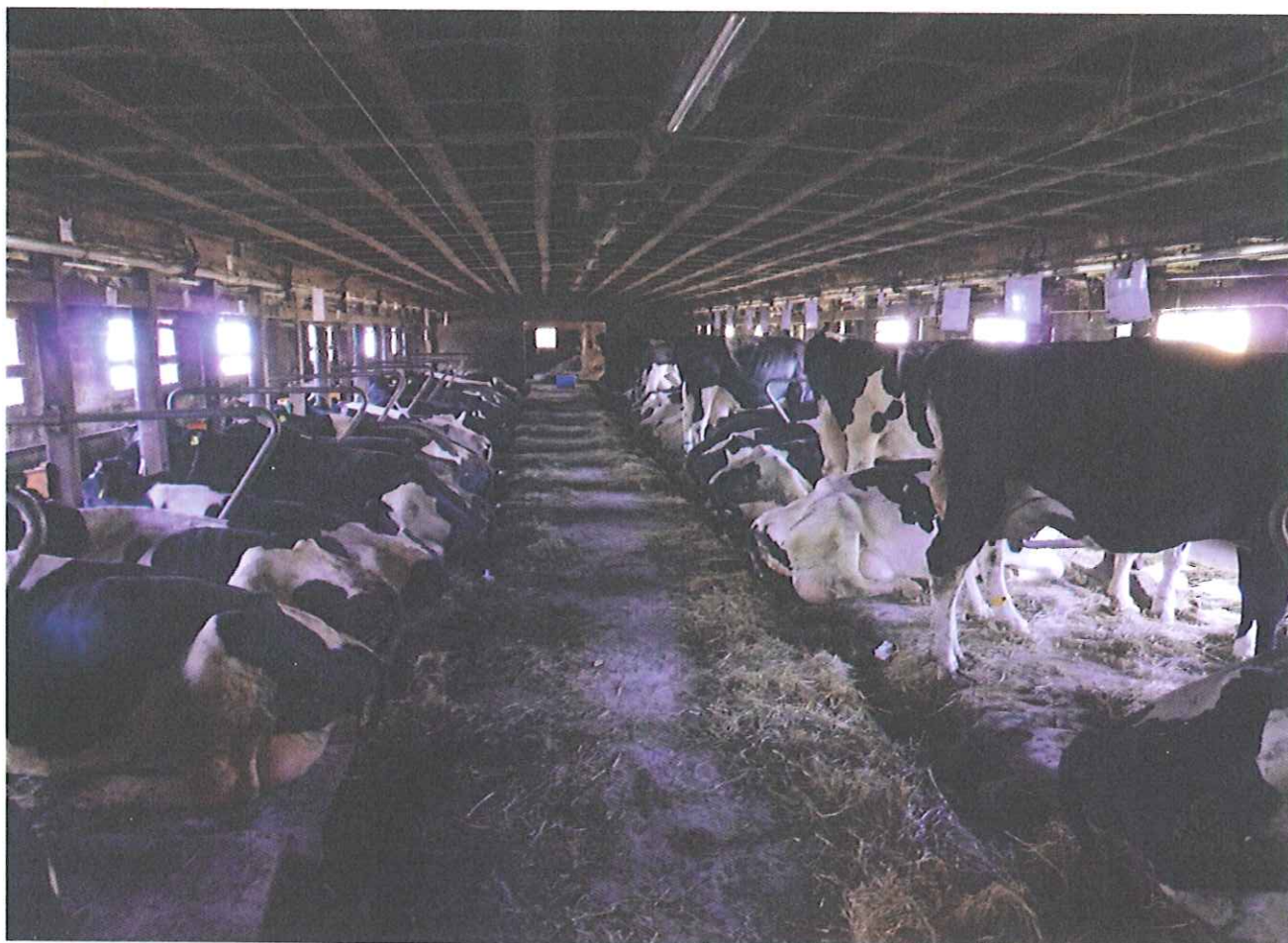




搾乳後30分～1時間後の牛舎内風景。左側が昨年マットを更新した牛床、右側は15年もの。

この農場は昨年、15年来使った牛床マットが限界を迎えていたので、(都合により)牛舎の片側だけマットを更新しました。それから1年以上経った先日、たまたま朝の往診があったので牛舎内に入ると何だか違和感が・・・牛舎の片側は牛が全頭寝ており、もう片側は立っている牛がチラホラ。お気づきと思いますが牛床マットを更新した方の牛がよく寝ていたのです、思わず写真をパシャ。マット更新群と古いマット群、安楽性に差があるならきっと生産性にも差があるに違いない！と調査してビックリ、その差は歴然。

マット更新群は乳量は923kg(8.3%)増、体細胞数はほぼ半分。安楽性の高さが乳量や乳質に反映されているのでしょうか。

	マット更新	マット古いまま
平均305日成牛 換算乳量(kg)	11929	11006
平均体細胞数(万)	19.3	36.2

※305日成牛換算乳量はアメリカの計算式によって算出されているので若干高めにしています。

※乳量・体細胞データは過去直近3か月の数値を使用。

ちなみに古いマットはゴムチップを連続したチューブ状の袋に詰めその上にトップカバーを被せるタイプで、更新したマットはウレタン製の軽量マット。

安楽性について牛床マットに求められるものはクッション性・撥水性・グリップ性(摩擦性ではない)。その他コストや耐久性、クッション性の持久性などそれぞれ特徴があるので、更新の際には是非ご相談ください。